



学校法人川島学園 尚志館高等学校

■所在地 志布志市志布志町安楽6200
■校 訓 不屈不撓
■学 科
・特進科 ・建設工業科
・普通科 ・医療福祉科
・商業科 ・看護学科



学校の特徴

(教育方針)

- ・時代の多様化に即応した教育
- ・社会の要請に応える教育
- ・「知、徳、体」…調和のとれた教育

志布志の地に、1971年に創立された学校法人川島学園の一角を担う私立の高校です。校訓「不屈不撓」の精神教育を基軸とし、「文武両道」を教職員の合言葉とした日々の教育推進は、多方面で豊かに結実しています。

これからも、常に時代の動向を見据え、私学ならではの特色・魅力・活力ある学校を目指し、力強く飛翔していきます。

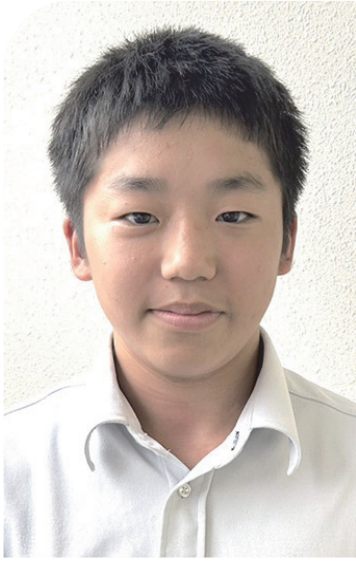
今月は尚志館高校の4人です

輝け若人

私の夢は、建築士の資格を持つ看板屋さんになることです。初めは、看板屋さんになることだけが目標でしたが、中学3年生で建築士の資格取得を考えるようになりました。きっかけは、父と進路について話したことです。

父は看板屋さんを営んでおり、一生懸命

描く自分の将来



尚志館高校 建設工業科 1年
下平 楓虎 さん

命働いています。その姿を見て「父のようになりたい」と思いました。そして、育ててくれた両親に、まして建設工

にも力を入れており、計算技術検定やガス溶接技能講習を受けました。11月には、危険物取扱者乙4種

恩返しをしたいと思い、夢を追いかけ始めました。絵や図を描くこと、創作することは好き

業科がある本校に入学し、夢を追い続けることができました。本校は、資格取得

を受験します。将来の自分が困らないように、たくさん挑戦して多くの資格を得たいです。

私のこの夢は、何年経っても変わらな

いと思っています。看板建物も人に影響を与え、社会に貢献し

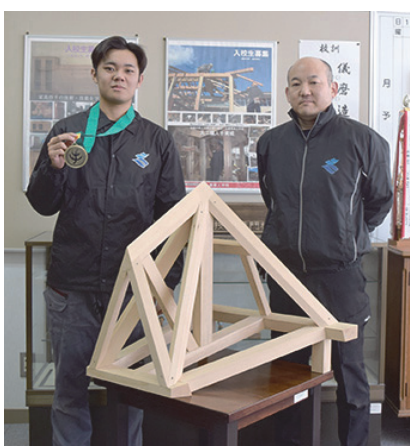
続けると考えているからです。私は、みんなから信頼され、社会に貢献できる安全な建築士・看板屋さんになりたいです。そのために、知識や技術を身に付けて成長していきます。そして自分の夢を応援してくれた人に感謝し、数年後には自分が人の夢を応援できるようにになりたいです。

「今」が価値あるものになるよう日々を大切にしていきたいです。

梅園 真吾さん(建築大工)

宮之城高技専 技能五輪で敢闘賞

10月、愛知県国際展示場等で開かれた第63回技能五輪全国大会で宮之城高等技術専門学校の梅園真吾さん(建築工学科1年)が「建築



受賞者の梅園真吾さん(左)と指導員の上村大作氏(右)とさつま町の同校

大工」の部門で敢闘賞を受賞した。1年生の出場は同校で初めてのこと。緊張しながらも、喜ばしい結果を収めた。大会は23歳以下が対

象。42種目1000人を超える技能者が全国から集まった。課題は約3カ月前に公表されるものの、大会当日に一部を変更する「実力勝負」の競技。建築大工は、65人が出場した。建築大工の課題は、屋根の構造となる登り梁小屋組み(米母)の模型。展開図を描くところから組み立てまで、2日間12時間で作り上げた。

大会では、特に柱と隅木の取り付け(接合部)に注力。きれいな仕上がりを目指した。梅園さんは「入賞はうれしいが、目標の賞に届かず、悔しい気持ちが大い。来年こそは

高校生建築設計競技

鹿高専の竹元さんが金賞



県建築士会(西園幸弘会長)が主催する第61回建築設計競技の表彰式が3日、鹿児島市のマークメイズンで行われた。今年度は、県内の七つの学校から124名の応募があった。金賞に輝いた鹿児島工業高等専門学校3年の竹元ほのかさんをはじめ、入賞した高校生らが出席。優れた提案をたたえた「写真」。

竹元さんは、六角形が印象的な住まいを提案。ゆったりとした開放的な建物のどこに階段を置くかで最後まで悩んだが、「自分の中では最適解を考えられた」と笑顔を見せた。審査委員長の木方十根氏(鹿児島大学大学院教授)は「建築に一つの方向性を見出すとともにどこまで広げられるかが肝要。設計の

奥深さを理解し、考え尽くした強い作品を生み出してほしい」とコメントした。西園会長は「CADを使ったテクニカルな設計と描きやすさを感じさせる提案が並んだ。今後とも積極的に取り組んで」と期待を寄せた。入賞者(学校と学年)は次の通り。

【金賞】竹元ほのか(鹿児島工2年)
【銀賞】西原みらい(鹿児島工2年)
【銅賞】八谷陽渚(鹿高専2年) 立神羽愛(鹿屋工3年)
【審査委員長特別賞】飯森爽晴(鹿高専3年)
【佳作】福富心晴(鹿児島工2年) 松原杏佳(鹿高専3年) 松山漱(鹿児島工2年) 山本光輝(鹿屋工3年)
【奨励賞】有田琉星(鹿児島工2年) 磯邊梨花(同) 川枝滉青(同) 角田一悟(同) 昇美希(同) 橋口唯志(同) 平田旬(同) 宮下結妃(同) 宮田早雪(同) 宿里瑠斗(薩南工3年) 西ノ園晟梧(加治木工2年) 兒玉桜輔(隼人工2年) 神園航希(尚志館3年)
【学校賞】鹿高専

鹿児島工高の伊井さん

国土交通省人材協

国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会(事務局・建設業振興基金)は、建設業従事者と建築・土木学科の高校生を対象とする作文コンクールについて、2025年度を受賞作品を決定した。本県からは、鹿児島工業高等専門学校(建設技術系3年)の伊井直太朗さんが高校生作文コンクールの不動産・建設経済局長賞に選ばれた。(7面に受賞作品、ほかは随時掲載)

作文コンクールは、建設産業への関心を高

鹿高専 鹿児島港安全協の見学会

見聞を広げて

鹿児島港安全協議会(山口憲司会長)と米盛誠心育成会(米盛庄一郎理事長)は10月31日、港湾事業現場見学会を行った。写真。



見聞を広げて。鹿児島工業高等専門学校の都市環境デザイン工学科3年生約40人が参加。概要の説明や現場見学を通して、港湾事業の知見を広げた。コロナ禍を除き、毎年行われている見学会。今回は、整備が進む鹿

は「見学会を通して見聞を広げてほしい。建設業界へ入るきっかけとなればうれしい」と挨拶。米盛理事長も「きょうの経験を活かして生かしてほしい」とエールを送った。九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所、各担当者がマリポートの事業概要や臨港道路整備事業を解説。VRを用いた施工の仮体験を行ったあと、学生らは2班に分かれて、米盛建設が進める護岸築造や東洋建設・本間組JV、川田工業が施工する橋梁の現場を見学。担当者の説明に耳を傾けながら、施工の様子を真剣なまなざしで見ている。最後に、学生から「貴重な経験ができた。今後の進路選択にも生かしていきたい」とお礼の言葉が送られた。

鹿工高生が職場体験 プロの仕事触れる

県建築協会

県建築協会（梶井銀二朗会長）は5～7日、鹿児島工業高校生のイ

ンターシップを受け入れた。会員企業の担当者、それぞれの現

の桜島学校新築の現場では、植村組の永濱諒氏が指導役を担当し、



現場作業を通じて、建築の面白さを伝えた＝鹿児島市内の現地

場で将来の担い手にプロの仕事や建築の楽しさを伝えた。

建築系2年生の川枝滉青さんが学びを深めた。複数の校舎棟が並行して整備される現場で測量や墨出しを行う中で、施工スピードやチームワークを体感した川枝さんは「スケールの大きさに驚いた。職人さんも優しい方が多い」と話した。

同校OBでもある永濱氏は「3日間、積極的に動いてくれた後輩に頼もしさを感じた」と笑顔を見せ、現場所長を務める五反田真之氏も「働く環境がよくなっていることを知り、いいイメージをもって（建設業に）飛び込んでもらえれば」と語った。



枕崎建設業組合

思い出深い一日に

枕崎小で重機体験

子どもを重機に乗せて実際に操作を行った＝枕崎市の同校

業組合（森秀俊組合長）

は8日、枕崎小学校で重機の試乗体験を実施した。児童や周辺地域の子供たちが搭乗し、オペレーター気分を満喫した。

体験イベントは、同校PTA行事に協力する形で実施。「建設業が地域、社会で果たす役割」「ものづくりが持つ魅力」の周知に加え、児童たちにとって思い出深い一日になるようにと技術者らがプロの技でサポートを行った。

イベント実行委員長である長野建設の神園知洋氏は「楽しそうに何度も搭乗する子どもがいてうれしかった」と笑顔。森組合長（森

◆鹿児島大学工学部、県立工業系高校4校と締結式 27日午後1時50分から、鹿児島市の鹿児島工業高校で高大

建設）も「子供たちが建設業に興味を持つきっかけになれば。今後地域に密着した活動を展開していきたい」と語った。

協力した組合員企業は次の通り。

豊留建設 長野建設 森建設 よつもと工務店 香建設 岩田組 茅野産業 今給黎建設 有園水道工業 福元建設 下木原建設 井上工業 鹿島組 日之出産業

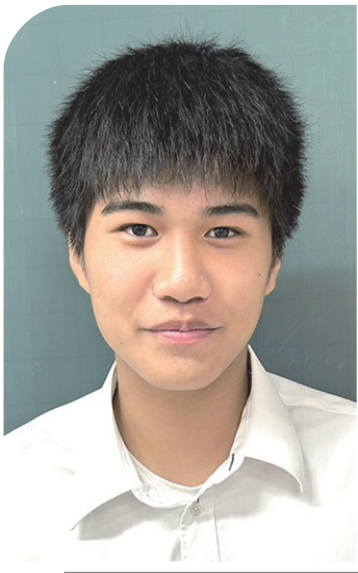


建設後75年が経過したことを受けて架け替えることになった飯母橋（いぼはし）は、L54m×W6・5mのPC2径間連結ポステンT桁橋。旧橋は2023年度に撤去され、26年2月の新橋完成に向けて整備が進められている。



私は小学生の時、よく神社に行っていました。その時、神社の修理をしている宮大工にカッコよさと憧れの気持ちを抱きました。最初は「建築物を修理する大工の人」と思っていました。家を建てる大工とは異なり、釘や金物を使わず「木組」という伝統的な技術で神社や寺

自分の夢と向き合う



尚志館高校 建設工業科 1年

濱岡 佳輝 さん

私は、本校の建設工業科に入学して建築物の構造など多くのことを学んでいます。最近では、ガス

格は特にありません。しかし、金物を使用せずに専門的な知識や技術を用いて修理する腕前が重視されています。

が、宮大工は年々減っていて、人手不足になっていて、これからの宮大工になるために必要な資格を取って、少しで

一人前の宮大工になるには10年ほどかかり、高い技術を身に付け、昔ながらの伝統を受け継ぐ必要があります。そんな宮大工の魅力が少しでも人に知ってもらえたらいいなと思いました。

私は、神社や寺などの歴史的建造物や伝統文化も残しているような一人前の宮大工になりたいです。そのためには、学校での勉強を日々大切にしたいので、後に生かせる技術や資格を取ってたくさん成長していきたいです。

加工高

土木フェスタ準備進む

初出展へ面白さをもっと



タブレットで作業を進める生徒ら＝始良市の同校

土木科は、イベントに向けて準備を進めている。教員と生徒が一体となって、土木の魅力が詰まった、いい伝えのつもりだ。

出し物は、土木に親近感を持ってほしいとコンクリート小物の配布や測量体験などを予定。また、土木と学習のつながりに関する紹介にも力を入れている。測量部に所属する生徒11人が、積極的に意見を出し合いながら出展物に磨きをかけていく。

同校の高橋宏幸先生は「授業で学ぶことが社会とどのようなつながっているのかを知ってほしい」と出展のきっかけに触れ、「土木の面白さを伝えることは難しく永遠のテーマ。生徒と協力して少しでも業界の魅力を発信できれば」と話した。

生徒らは「来場者に楽しんでもらうことを第一に、そして自身も楽しみたい」「土木に携わる女の子もいることを伝えられたら」と思いを口にした。

土木フェスタは22日午前11時から、鹿児島市の天神おつきやびらもくると天文館本通りで開催する。

平佐東小児童が現場見学

橋梁架替に興味津々

薩摩川内市

薩摩川内市は11日、同市発注の飯母橋架替工事の現場で地元小生を対象にした見学会を行った。写真。平佐東小学校の児童ら約30人を迎え、工事の進め方やインフラ整備が果たす役割などを説明。ドローンやVRなども体験し、最新の技術に目を輝かせた。

見学したのは、同校の全校生徒や保護者、教員ら約30人。上部工を担当するコーアツ工業や取付道路の整備を進める木場建設の関係者が案内し、体験型のブースラリーを3班に分かれて行った。

児童は工事概要や橋桁を動かす工程の説明を受けたあと、ドローンやVR、3D測量、高所作業車の搭乗を体験。「建設業の仕事って楽しそう」「いろいろなことを知って勉強になった」など、普段何気なく利用している道路や橋の造り方に興味津々だった。

笑顔あふれる子供たちの姿に、同市道路河川課の市川鉄哉課長は「建設業界は担い手不足が大きな課題。こうした機会を通じて、少しでもインフラ整備に関心を持ってもらえたら」と目を細めた。

連携締結式を行う。高大連携協定は、鹿児島大学工学部と県立工業系高校4校（鹿児島工業、川内商工、加治木

工業、準工業）の間で結ばれるもの。相互の教育資源を活用し、教育の充実と生徒・学生の資質向上を図る。

指定強度ピタリも

学生らがコンクリートコンテスト



鹿児島工業高校や大学などから計23チームが参加＝鹿児島市のガイアNANSAY LLP

県生コン工組・協組連

県生コンクリート工業組合(米盛直樹理事長)と県生コンクリート協同組合連合会(同会長)が主催する「鹿児島コンクリートコンテスト2025」が15日、鹿児島市のガイアNANSAY LLPであった。県内の高校生や大学生らが参加し、製作した供試体の指定強度への近さを勝負。ピタリと数値を合わせたチームなどの技術力に会場では驚きの声が上がった。

今回は、強度の大きき(ドラコン部門)を競わず、指定強度への近さ(ニアピン部門)のみを競った。二つの指定強度(15N/mm²、45N/mm²)を定めた競技に、鹿児島工業高校の生徒や大学、鹿児島工業高等専門学校から計23チームが参加した。競技では、学生らが規定の材料を用いて製作した供試体(円柱形・直径10cm×高さ20cm)の圧縮強度試験を実施。各チームが目の前で出される試験機の数値に注目し、固唾を呑みながら見守った。

供試体を指定された強度に作るには、材料の配合比率や温度等に左右されるため、コツのいる作業となってい



建設業に興味を持ったきっかけは、小さいころ建設現場で重機に乗っている人たちがすごくてかっこいいなと憧れを持ったからです。そのとき、将来は重機に乗って仕事をしてみたいと思いました。中学3年生で進路に迷っていた私は、建設工業科がある尚志館高校に進学しました。

将来の夢



尚志館高校 建設工業科 3年 谷口 一泰 さん

志館高校にひかれました。本校の建設工業科では、ガス溶接車両系建設機械の講

小型車両系建設機械や建築CAD、パソコン利用技術検定など将来に役立つさまざまな資格が取得で

乗る実習では、初めてのことで緊張しましたが、講師の方

いただきながら実習を終え、講習修了証として免許を取得できました。今後さまざまな資格に挑戦

身に付けた技術披露

工業系高校、生徒発表大会

県高工連 県高クラブ



県高等学校工業クラブ連盟が主催する「第34回生徒発表大会」が13日、薩摩川内市の川内商工高校などであった。県内の工業系高

の基礎的な知識、感覚を身に付け、より関心を高めてほしい。将来はぜひコンクリート製造に携わってもらえたら」と思いを寄せた。なお、午後からは、生コン工場の仕組み等に関する説明会を開催。学生らは業界が果たす役割などを理解した。成績は次の通り。

【指定強度15N/mm²】
優勝＝エース(鹿児島工業)▽準優勝＝チームおもしろ(鹿児島工業)▽3位＝チーム眼鏡(鹿児島高専)

【指定強度45N/mm²】
優勝＝建友3(鹿児島工業)▽準優勝＝田舎門ズ(鹿児島工業)▽3位＝チーム日サロ(鹿児島工業)

薩南工高生インターンシップ

永照電気が受入れ

南九州市に拠点を置く永照電気(河野洋一郎社長)は11月13日、薩南工業高校が実施したインターンシップで生徒を受け入れた。進路選択が迫る情報技術科2年生3人が参加。建設業が地域で果たす



現場を見学する生徒たち＝南九州市で整備が進む新庁舎

の新庁舎整備に関する同社の担当現場も見学

役割、資格取得の重要性を理解した。生徒は3日間でケーブルの入線やブレーカーの取り付けを体験したほか、工事写真の撮影、整理作業に挑戦。管内でも指折りの大型事業として整備が進む同市

インターンシップを終えて「資格の大切さを知った」「より知識を広げ、体力の強化も必要と感じた」と生徒たち。河野社長は「勉強、部活などで忙しいと思うが資格は積極的に取得してほしい。地元建設業に就職して一緒に地域発展に貢献できる日がくることを期待している」と思いを語った。

小学校でイベント

楽しく防犯を

春山友の会



活で生きていることを、リニューアブルジャパンの海老原知晃さんは、資格取得が可能性を広げることそれぞれ説いた。

幹事校の清川康雄川

校から約300人の生徒が参加し、授業で身に付けた技術を披露した。

同連盟の福岡幸彦会長(加治木工業高校長)は「県内の工業生が一堂に会する貴重な機会。互いに向上心を高めてほしい」と挨拶。

川内商工高校では、生徒による研究発表やアイデアコンペ等を行い、授業で得た知識や技術を遺憾なく発揮。研究発表では、武岡台高校情報科学科の3年生3人が「Raspberry Piを用いたスマートミラーの製作」について発表し、吹上高校電気科の3年生3人は「蛍光灯の2027年問題」と題して蛍光管の製造・輸出入禁止により、危険さ

このほか、体験意見発表として、24年3月にれいめい高校工学科を卒業した植村組の東福大輝さんが、学生時代に培ったコミュニケーション能力が社会生

供した。同校や鹿児島西警察署が協力した当日は、児童や高齢者ら約300人が来場。会員が詐欺の手口や防犯のヒントを「笑い」で伝えるショーを行ったほか、防犯グッズや記念品のプレゼントもあった。

会場にはパトカーや白バイが並び、参加者の注目を集めた。1年生の男子児童は「分からないことがあったらパパとママに相談しようと思いました」と話した。安全安心の輪を広げた甲斐島会長(坂本建設)は「防犯には地域のつながりが大切。建設業で働く父として今後も子供たちと触れ合う機会をつくれば」と笑顔を見せた。

九州地方整備局鹿児島国道事務所が進める鹿児島県東西道路整備の現場見学会が14日、鹿児島市の現地で行われた。日本建設業連合会九州支部の主催で、鹿

鹿高専が現場見学 進路に役立てて

東西道路シールドT.N



スケールの大きさを肌で感じた＝鹿児島市の現地

児島工業高等専門学校（4年生35人）が参加。シールドトンネルの現場を訪れ、工事規模の大きさを体感した。施工を担当する大成建設・大豊建設JVの常田和哉作業所長（大成建設）ら関係者が工事概要を説明。学生たちは現場での工夫等の解説を受け、防音ハウスの中を通り、完成したトンネル部分を歩くなど、工事を肌で



私たちは、積極的に検定や資格に挑戦しています。1年生では、計算技術検定やパソコン利用技術検定、ガス溶接技能講習に挑戦しました。パソコン利用技術検定は1回で合格することができなかつたので、放課後など空いている時間を使って復習や



尚志館高校 建設工業科 2年
下伊倉 真来 さん

資格習得を目指す

補習に励み、2年生でもう一度チャレンジ。無事、受かることができました。ほか、集中力を保てなく、難しかったです。続けて実技試験を行いました。実技の溶断・溶接がものすごく難しかったです。

かにも、小型車両建設機械技能講習に合格しました。1番大変だったのは、ガス溶接技能講習。記試験から始まり、

指示されたことをうまく理解することができず、悔しい気持ちになりました。講師の先生が最後まで

で指導してくださいました。次に大変だったのは、小型車両建設機械技能講習です。筆記試験では、講師の話をしっかり聞くことで理解を深め、スムーズに解答することができました。実技では車両の操作を覚えることが大変でした。両手それぞれ

作文コンクール

来月3日、表彰式

国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会は12月3日午前11時から、福岡市の福岡第二合同庁舎で建設産業に関する作文コンクール受賞者を表彰する。

本県からは、鹿児島工業高校（建設技術系3年）の伊井直太朗さんが不動産・建設経済局長賞に選ばれた。（作品は13日号7面）

鹿児島工高の伊井さん



明るい表情で写真に納まる生徒ら＝長島町の同校

丸久建設 川床中でキャリア教育 将来の選択肢に

丸久建設（桑木喜康社長）はこのほど、長島町の川床中学校が実施するキャリア教育に協力し、出前授業を行った。座学で建設業の役割や工事の進め方などを伝え、実習では重機



児童と力二放流
大きく育つてね
福永建設

福永建設（福永和則社長、始良市）は22日、同市蒲生町の蒲生川でモクズガニを放流した。蒲生小学校児童保育の児童18人と教諭らが参加。子供たちはバケツを手に何度も往復してカニの放流を楽しんだ。写真。今回で3回目。

熊毛支庁建設部

砂防堰堤で見学会

住民を守る存在

県熊毛支庁建設部は、中種子町納官にある砂防堰堤（松細1工区）で現場見学会を行った。星原小学校1～5年生の児童10人が参加。現場見学会を通じて砂防学習を行い、児童らの土

る検証実験やバックホウの乗車体験などを行った。同課の平屋幹雄技術補佐は「土木事業や堰堤について理解してもらえたら、公共施設を身近に感じてもらうことができる人になる」と話した。



堰堤の有無を検証＝中種子町の現地

の試乗やコンクリート打設を体験。「将来の選択肢の一つに」とその魅力を発信した。座学では、現場で採用されている特殊な工法を動画で紹介。「大きな構造物をどうやって動かすの？」など純粋な質問が寄せられた。実習では、操作を手ほどきしてもらいながらタイヤローラーで校庭を一周。校舎前の整地したスペースには生コンを打設し、記念の手形を残した。

展示即売会
訓練生の作品並ぶ
宮之城高専

家具は同校室内造形科に所属する学生が訓練で作ったもので、購入時の注意事項についてはホームページを参照。時間は午前9時～午後4時（17日は午後3時まで）で、木工品の製作実習も見学できる。